

# 単Pだより

7月17、18の両日、今年も、泊2日の「わくわく体験」を無事成功裡に終えることができました。参加者は西尾小学校の児童・家族、教職員に加え、小松市内からの応募者もなつていますが、毎年キャンセル待ちが出るほどです。活動は約170人の参加者を5グループに分け、夫い豊かな自然体験、キャンプ生活を創り上げるため、リーダー中心に役割を分担し、子どもは多量、すべての参加者が何らかの作業、活動に従事します。一方、「わくわく体験」



を楽しく思い出深いものにし、安全への配慮も忘れることなく、いかにして西尾の魅力を世に出すか、これが事務局の最大の課題です。特に、今年は18日(明)の大雨により、一部アクトが壊れたり水で濡れたり、川で泳がせておいたスイカが流失するなど、予定外の「行事」が発生しました。西尾小学校の関係者なら、少なからず「巨は経験するわけですが、一度も出た経験者の中には、正言動や空や出し手配の準備等知識を絞り、各班のそれぞれの計画が崩れました。当日は、川遊び、山登り、岩魚つかみ、星空の観望、観望、おもちづくり活動、3歳の急事作りなど、活動は盛り上がり、大人は腹いっぱい自然の空気を吸い込みながら、ゆったりした時の口で調理や作業をしました。その口で、大人も子どももそれぞれが和やかで温かく、そして元気づけに交流しあう光景が展開されました。



「わくわく体験」はそれ自体が貴重で豊かな体験の過程です。しかし、計画から始まり、後片付けまでの4ヶ月間、たくさんの方たちの汗水たらした活動は、学校と保護者を近づけ、保護者同士の結束させ、継続してきていることで西尾小学校を支える大きな力となつていきます。それらのすべは、極小の山間の小学校から元気な子ども達を育て、地域も活性化していくおきな役割を担っていることには確かです。

## 未来に輝く子ども達のために



小松市立学校PTA連合会 会長 本村 与茂

各位PTAの保護者の皆様には、日頃より子どもたちの健全育成に益々ご活躍のことと存じます。ここ数年、子どもたちを取り巻く教育環境が大きく変化の中で学校・家庭・地域の各様の積極的な活動により、現代の子どもたちには最も必要とされる「豊かな心」「生きる力」の育成が一步、一歩成果として現れているように思っています。しかしながら、犯罪の低年齢化や特異なケースでありながらも虐待事件に見られる残酷な事件などは、子どもの「心の奥底」に普く感情の二面性に驚きを感じさせ、教育へのあり方さえも考えさせられてしまいます。今の子どもたちは、友達を求めながらも孤独感をいつも感じ、それがストレスとなり感情のコントロールが出来なくなると思います。まず、私たち親が

自分たちもどうであった様に、悩みや失敗を子どもに根絶し立ち、何でも話せる家庭作りが必要であると思われれます。その上で「命の尊さ」や人としての「基礎基本」をきちんと教える家庭教育の重要性があるのでないでしょうか。

これから子どもを持つ親の責任として、活動から学び実行し単位PTA35校が一丸となって「未来に輝く子ども達のために」共にがんばっていきましょう。

小松市立学校PTA連合会

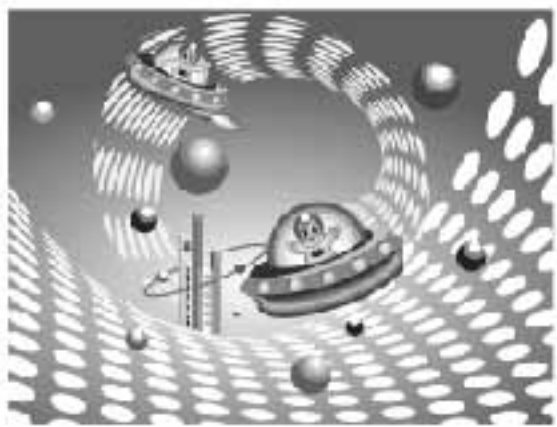
# PTAだより

第62号

〒923-0007 小松市西町25番地 下成興義記念館内  
TEL (0761)23-2478  
(0761)23-0902  
FAX 0761-23-0902  
E-MAIL tadk@net.hakusan.ac.jp  
WWW www.hakusan.ed.jp/mzyu-w/0224/

平成16年10月1日発行  
市P連広報委員会  
印刷 マルチメディア工業株式会社

各位PTAの保護者の皆様には、日頃より子どもたちの健全育成に益々ご活躍のことと存じます。ここ数年、子どもたちを取り巻く教育環境が大きく変化の中で学校・家庭・地域の各様の積極的な活動により、現代の子どもたちには最も必要とされる「豊かな心」「生きる力」の育成が一步、一歩成果として現れているように思っています。しかしながら、犯罪の低年齢化や特異なケースでありながらも虐待事件に見られる残酷な事件などは、子どもの「心の奥底」に普く感情の二面性に驚きを感じさせ、教育へのあり方さえも考えさせられてしまいます。今の子どもたちは、友達を求めながらも孤独感をいつも感じ、それがストレスとなり感情のコントロールが出来なくなると思います。まず、私たち親が



### 平成16年度 市P連組織

顧問	会長	幹事	副会長	副会長	副会長
山本 博之 本村 与茂	本村 与茂 (幹事)	山本 博之 川口 美治	山本 博之 川口 美治	山本 博之 川口 美治	山本 博之 川口 美治
副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之
副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之
副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之
副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之	副会長 山本 博之

### 編集後記

「三人寄れば文殊の思慮」とはよく聞かれます。編集・校正作業も一人より二人、そして三人を抱えることで的確に担当が広がります。世の口、自分のことしか考えない風潮がありますが、自分や仕事を離れたところの目標に対して、多くの人と作業を共にすることで、自分一人では出来ないことも実現するのではないのでしょうか。PTA活動といふのがありますが、今の時代、大人と子どもが共に成長する場の提供が不可欠のようです。

山本 博之

### 100人の村

「世界がもし100人の村だったら」の中にこんなことが書いてあります。「いろいろな人がいる。あなたと違う人を理解すること、相手とあるがままに受け入れること、そしてなにより、そういうことを知ることがとても大切です。」このことは本来国際理解教育でよく用いられる内容ですが、考えてみると基本は私たち家族や地域にあてはまるのではないのでしょうか。「いろいろなタイプの子どもがいて、その子どもたちの考え方や理解のしかたも様々である」その事実を把握し育てるのと同様であり学校では先生です。子どもたちひとり、人が宝石の原石だとすれば、一粒ずつ丁寧に磨き上げてあげたいですね。私たち保護者には、子どもたちに様々な体験を通して生きる力を学ばせる責任者なのです。親として、おとなとして、責任ある行動を心がけていますか。私たち保護者の行動そして活動が今試されています。

山本 博之



# 平成16年度 第1回会長研修会

テーマ「小松市教育施策について」  
講師 小松市教育委員会 教育長 矢原珠美子

会場 第一地区 コミュニティセンター  
日時 6月29日(火) 13時～17時  
講師 総務委員長 法師一寛

講演会の冒頭、現在の子ども達の実態についてのお話がありました。  
経済協力開発機構（OECD）が行った学力検査では、二十一ヶ国中、日本は、数学・科学で大変優秀な結果が出た反面、意欲・自学・読書、意見を述べる力などでは、参加国中最低レベルであったこと、佐世保事件等、今までの考えられなかった事件が次々と起る現実、そして、数々の子ども達の体力減退や食生活の乱れ等です。そこで、これらの実態を踏まえて、小松市として何をすべきかを考える「学ぶ・こころ・体」を大きな三つの柱に掲げて、小松の学校教育をすすめているという趣旨で話されました。



まず、「学ぶ」ということでは、確かな学力が身につくように習熟度別少人数指導を取り入れられたり、基礎基本の定着を計るための「漢字・計算」、朝の読書の時間を確保、又、英語教育では、英語力の向上と充実を主め、総合的な学習では生きる力を身につけさせ、色んな職業の方々から学ぶキャリア教育では、勤労観・職業観を少しでも植え付けたいということでした。  
次に「こころ」という点では、学校図書・図書ボランティアの協力のもと、湿もりのある学校図書作・読書教

育の充実を目指し、読書をする中でそこが豊かになることを知ってもらいたいという趣旨で話されました。  
最後に「体」ということでは、薬物の乱用や安全教育をしっかりし、健康な体作りや大冒険を教え、同時に食生活の乱れが生活習慣の乱れにつながるなど、親子・家庭の連携へと続く流れがあるため、いかに食生活が大切であるかということも教えるという趣旨で話されました。  
特に「こころ」と「体」については、学校だけでなく、家庭の協力・地域の協力が大変重要であるという趣旨で話され、強調されました。  
参加させていただき、まず基礎基本となる家庭がしっかりして、そこで、勉強面でも生活面でも充実して、のびのびと生活すること、そして家庭と学校・地域が相互に連携していくことが今後益々重要になってくると思いました。



## 第5回 石川県PTA指導者研修会

講師 米川 由美

「大地と人に学び、未来を拓く、たくましい石川っ子を育てよう」のテーマのもと、六月四日、第二回石川県PTA指導者研修会がホテル日航金沢で開かれました。  
今回は、「PTAとは、何をすべきか」をテーマに、今一度足元を見つめなおし、各単位PTAに持ち帰り、実践してほしいことを前提に、私たちが関心の高い課題を二つに絞り、全体会のみで、早下の各単位PTAの指導的立場にある会長ならびに副会長が一堂に会し行われました。  
第一部 本県内の県教育施策を学ぶ  
「確かな学力を培うために」「豊かな心を育むために」「子世の健康づくり」、高等学校の通学区展覧止への4点について質疑を話し合いが行われました。



第二部 PTAの使命を一人一人が考ふる  
PTAにとって古くは「保護者の種である、役員のみならず、役員以外の人、PTAの活動への関心が低いと、PTAの問題に対して、各単位PTAでの二六六が真剣に討議されました。

## 親子体験バス

豊かな心を育む委員会 企画委員 平野 勝

親子で楽しい思い出をつくるため、思い思いのバスに乗って、親子で体験バスツアーを企画しました。

8月21日、22名の参加をいただき、高山方面へバスツアーに分かれて出発し、1つは、新川育成牧場でソーセージづくりを、もう一つは、まずすし屋に遊び、まずすしづくりを体験しました。

お昼は、新川牧場で合流し、バーベキューをしました。体験で作ったまずすしとソーセージをお互いに分け合い、おいしくいただきました。牧場では、動物とのふれあいができ、見事な景色もすばらしく、参加者の皆様には、喜んでいただけただけではなないでしょうか。

昼食後は、暫別天然記念物の樹根があり、気候をハノワイジオンで学べる、魚沼産米博物館に寄り、帰途につきました。

今回のようなイベントは、いろいろな学校の親子が交流できる唯一の機会がなかったため、お祈りしました。終えて何よりも、「友達が多かった」、「楽しい一日だった」という感想文を見て、それだけで委員会が準備運営をさせていただいた甲斐がありました。



今回初めて参加しました。皆様は3人の子供たちと2人乗りの車で来たことかと思いますが、今日は4人の親と2人の子供で、バスツアーに参加しました。バスの中でバスガイドさんが説明して下さり、新川牧場ではソーセージ作り体験が楽しかったです。バーベキューで焼いたお肉を食べることができてとても良かったです。帰ってきたら子供たちも喜んでくれました。お肉を焼くのが楽しかったです。子供たちはお肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。



お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。

お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。

お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。



お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。お肉を焼くのが楽しかったです。

**日本PTA全国大会** 8/27(日)～28(月) 会場: 北海道

特一分科「教育改革」に参加しました。教育改革や教育基法の改正等について、現、教育関係者、各校のそれぞれ立場から議論を行いました。



「家庭・学校・地域」自立、始める中学生の予備には、この二つの要素が不可欠です。そのために、私たち育友会が活動をしてその仲介役・パイプ役を果たして、「家庭・学校・地域」が心の絆で結ばれるように願い、本テーマを設定しました。

各専門委員会が互恵活動を設定し活動を展開して行くにつれ、これまであまり行事に参加していなかった会員や会員以外の地域の方々が活動や行事に顔を揃えてくれるようになり、また、アンケート調査でも私達が思っている以上に地域の方は、中学生をよく知っているし、学校や育友会行事に関心を持っていることが判りました。

そんな中、実行委員会が「活動の中で感じた思いや願いを紙にできないか」「活動だけでなく、発表にも多くの人々が係るようにならないか」という意見が出され発表に台詞を挿入することにしました。

研究発表への取組みにおいて「発表のための研究でなく、今後につながる活動」を常に意識しつつ活動してきました。そう、いった意味では、今後の活動が発表の成否を決定するのではないかと思います。これまで築き上げてきた「家庭・学校・地域との絆」を少しでも大きく強固なものに出来るよう今後とも力を注いで参りたいと思います。

研究発表の委員は、育友会役員が兼務する形で行いました。しかし、本校役員会の任期は、年間であり、研究期間中に役員が交代したため、旧役員より数名に残ってもらい、役員と合わせて、研究発表の実行委員会を設置しました。実行委員会の開催日も平日から、全員が参加できるように、土曜日、日曜日に変更しました。貴重な休みにも関わらず多くの出席を待てることで、実行委員会の皆様には感謝しています。

発表に当たり、研究期間中に実施した、「こいのくらし」アンケートに書かれていた保護者の皆さんの悩みや意見をどのように発表するか、非常に悩まされました。そこで、何か新しい三法で発表できないかとの意見をもとに、発表のテーマでもある家庭でのしつけの大切さを「寸劇」を編り交えて、保護者に訴えようと考えました。しかし、本日に発表会でできるか不安いっぱいでした。発表当日、寸劇開始早々に、

「しっかりと生きていける子を育てる家庭教育をめざして」

金野小学校育友会会長 村田 英俊

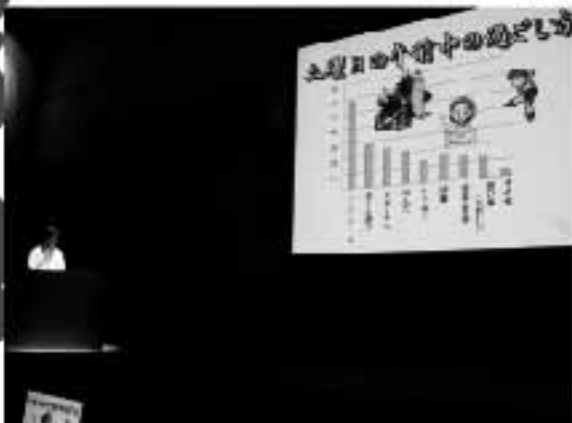
『絆』くぎらずなく  
家庭・学校・地域連携

中道中学校育友会会長 川原 健一



『新しき挑戦』  
土曜講座への道

今江小学校育友会会長 中出 英雄



第47回 小松市 PTA研究大会  
平成16年8月1日(日)  
こまつドーム

- 第47回小松市PTA研究大会がこまつドームにおいて西村市長をはじめたくさんのお賓をお迎えし、盛大に開催されました。今年度は、新しい試みとして、研究テーマを設けず自由課題としたため、中道中学校、今江小学校、金野小学校のそれぞれの育友会とも地域に密着した特徴ある研究発表が行われました。
  - 研究会の後半は、「人に子どもに光あれ」をテーマに富田富士也氏の講演が行われ、コーヒーあふれる話し振りが大変好評でした。
  - また、閉会式において日頃PTA活動や子供たちの健全育成にご尽力されている方への表彰も行われました。
- ☆小松市教育委員会表彰状受賞者  
山岸 稔、米川 由美、菅林美由紀
  - ☆小松市立学校PTA連合会  
会長感謝状受賞者  
山本 博之「前会長」  
系木 公平「交通安全推進」  
第一小学校  
井野 了徹「健全育成活動」  
稚松小学校、丸内中学校  
吉田 一義「農業体験推進」  
荒瀬小学校

講演会  
『人に子どもに光あれ』  
“寅さん”的  
コミュニケーションのすすめ

子ども家庭教育フォーラム代表 富田 富士也 氏

今回の講演で富田氏は、コミュニケーションの大切さを強調されています。そのコミュニケーションもただ話したり、声を掛け合うだけでなく、傷ついたり、リスクを負ったりしながら築き上げていくものだというのです。人間関係を築くには、お互いに傾き合い、せめぎあい、寄り添ってこそ成り立つもので、時間をかけ、手間暇をかけてこそ関係が継続され、善化していくというのです。日頃同僚やしゃべったり、行動したりしているだけでは得られないものと強調されていました。

先生のおっしゃる「なんかしても傾きできる」ことを実感できるかどうか大きな問題だというもうなげます。誰も人と関係せずには生きていけない。人が生きるには、あるいは生きていくと認識するには、何らかの傾きが必要という思いがこもっており、そんな思いをかなえるためにチャットやメールでなく、人と人とのぬくぬくを醸成した関係の大切さが重要であるという先生の考え方に強く共感しました。また、そうした関係は、どんな不出入な自分でも受け入れてくれる「差える家」の存在を信じる事が出来るようになり、子どもが成長する上で非常に重要であると力説されました。



「飯沼さんに感謝」  
時を忘れて内容の検討を行ううちに、いつしかシンシアレラタイムとなり、興味が尽きなくなることが何回もありました。アルコール抜きでホストした話し合いができました。

「おくらさん」  
会場の皆さんに緊張感を持って聞いてもらおうと、会場インタビュアーを取り入れました。昔もって、誰かに頼んでおこうという意見もありましたが、そうはしません。本当に緊張したのは今江小のメンバーでした。

「発表までが旧理事の仕事」  
一昨年来の土曜講座のスタートとこの経過を振り返るにあたり、こう言っていたら当日を悔やまずに済みます。旧理事の暖かい気持ちにとても感謝しています。



# 母親委員会のページ



小松市立学校PTA連合会

## ハートフルライブラリ



●2号車のところでよんだ、さくらえびって本が、おもしろかった。

●ぼくはこのミステリー列車で一番、奈良に行つてしかにしかせんべいをあげた事がおもしろかったよ。

### 母親の感想

日頃、仕事と一はかりで、暇にもしてあげられませんが、今日1日、2人で充実した時間をすごすことができました。人混みの混雑の中にも余裕なく古れましたのがこれこそ「ミステリー」が起るかわからないこのスリルがとても良い経験になったと思います。

### 父親の感想

日頃どこへ行くのもだいたい車なので、列車の団体で旅行するのは初めてです。車とちがって人と人の距離が近いとか、ミステリーと言ったところへ行くのかわからず知らない町で親子/計画をねって、日頃あんまり行かなかった会話をねって、すごくよい経験になったと思うし、こういったツアーは自分自身にも勉強になったと思うので来年もぜひ参加したいです。

毎年度例の新作絵本のプレゼントに子ども達は大喜びでした。



読んでみまっし

今年度は、お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達と一緒に読んでみまっし。おもしろいお話がたくさんあります。ぜひ読んでみてください。

# 母親委員会のページ



今年度の母親委員会のページは、私たちが担当します！

今年度の母親委員会のページは、私たちが担当します！

今年度の母親委員会のページは、私たちが担当します！

今年度の母親委員会のページは、私たちが担当します！

## 第2回 母親委員会「教育長さんと語る会」

6月22日 第一コミュニティセンター



矢原教育長さんと共に、日頃の子どものことや、現在の教育について語り合う会がありました。

- 1 知・徳・体を考える。
  - 知(知識)徳(道徳=心)体(身体)のバランスをみると、日本の教育は知にかたよっている。
- 2 商業主義と情報化にさらされている子供たち。
  - テレビゲームの中での命や死と現実とが近い。
  - 世間や他人という「公」の意識が欠如。
  - パソコン、テレビゲーム、インターネット、携帯電話などの使い方を話し合う。
- 3 日本人の身体におきていること。
  - 若い子は体型が良いが体力がない。
  - 子供の身体性を食・性・造などトータルに考える教育を。
- 4 5+2のリズム
  - 週5日は学校、あとの2日は家庭学習。
  - 家庭では自分で学習する力や生活指導(しつけ)が大切。



現代の子どものたちがおかれている状態や環境を知ることができました。家庭学習では「10分間でいいので親がそばで見守るだけで安心感がうまれ学習能力があがる」ということを知り親の存在の大きさを再認識しました。



今年度の母親委員会のページは、私たちが担当します！

今年度の母親委員会のページは、私たちが担当します！

今年度の母親委員会のページは、私たちが担当します！

今年度の母親委員会のページは、私たちが担当します！